



お米をつくらう!



バケツで育てる



田んぼで育てる

山口 誠之 監修



もくじ

はじめに	2
お米ってどんな食べ物？	6
お米が食卓に届くまで	8

1章 バケツでお米をつくろう! 11

種もみを発芽させる	12
土を準備する	14
発芽した種もみをまく	16
よい苗を選んで植えかえる	18
じょうぶな苗を育てる	20
穂やイネの花を観察しよう	22
害虫を退治する	24
鳥や台風から守る	26
イネを収穫する	28
脱穀・もみすりする	30
精米する	32



2章 田んぼでお米をつくろう! 35

育苗箱に種もみをまく	36
田んぼのしくみについて知ろう!	38
田植えをする	40
雑草を取りのぞく	42
イネを収穫する	44
脱穀・もみすりする	46
精米機で精米する	48

3章 お米を食べよう、調べよう! 51

ごはんを炊く	52
ごはんを食べる	54
お米について調べて発表しよう	56
お米からできる食べ物	58
お米の生産地	60
世界でつくられるお米	62

コラム お米づくりから生まれた年中行事	
春 花見・田植祭・さなぶり	10
夏・秋 虫送り・月見・新嘗祭	34
冬 あえのこと・しめ縄飾り・もち花	50

さくいん	64
------------	----



5~6月

よい苗を選んで植えかえる

苗の植えかえは、生長のよい苗をじょうぶに大きく育てるためにおこないます。

バケツの中が 葉っぱでいっぱい

種もみをバケツに植えてから1か月がたち、バケツの中はイネの葉がのびて、こみあってきました。この中からとくに背が高く、くきが太い苗を選んで、バケツの中心に植えかえます。植えかえたあとの苗は、さらに根をのばし、栄養をさらにたくさん取りこみます。そして根もとから新しいくきが生える「分げつ」が起こります。



苗を植えかえよう

苗の植えかえは、根が切れないように気をつけておこないます。



① 苗をほり出す

シャベルで苗を1本ずつ、根を切らないように気をつけて、ほり出す。土が固いときは、水を足して土をやわらかくしてからシャベルを入れる。



② 苗を選ぶ

ほり出した苗を土をつけたまま1本ずつならべて生長のよい苗を2、3本選ぶ。



③ 1束にまとめる

選んだ苗を、1束にまとめる。取りのぞいた苗は、ほかのバケツで育てて観察してもよい。



④ 中心に植える

まとめた苗をバケツの中心に植え、土の表面から1cmの深さに水を張る。2週間ほどたち、くきの数が増えてきたら5cmの深さに水を張る。

イネの生長

← 芽が出る → → 葉が増える・くきが分かれる → → 穂が出る・花が咲く → もみが生長する・お米が実る

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

作業

・発芽させる
・土を準備する

・種もみをまく
・苗を植えかえる

・中干し

イネを守る
・害虫を退治する
・鳥や台風から守る

・収穫する

・脱穀する
・もみすりする
・精米する

やってみたよ!



イネの栽培日記

6月21日

- ・1本の苗に葉が3~4枚ついている。
- ・どの苗もよく生長していたので、苗を植えかえるとき、どれを選ぶかまよった。

根がのびているから傷つけないようにほりおこすのは大変。



めざせお米づくりマスター

分げつのしくみ

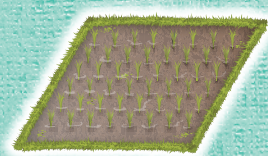
イネは、苗の植えかえをすると、根元から新しいくきが生まれてくきの本数が増える「分げつ」がさかんになるよ。分げつが進むほど、お米がたくさん実るんだ。1つぶの種もみから多いもので15~20本くらいのくきが出てくるよ。太くてしっかりしたくきが多いほど、元気に育っているしょうこだよ。



分げつが始まったイネ。葉が5~6枚くらいになると、分げつが始まるころだ。

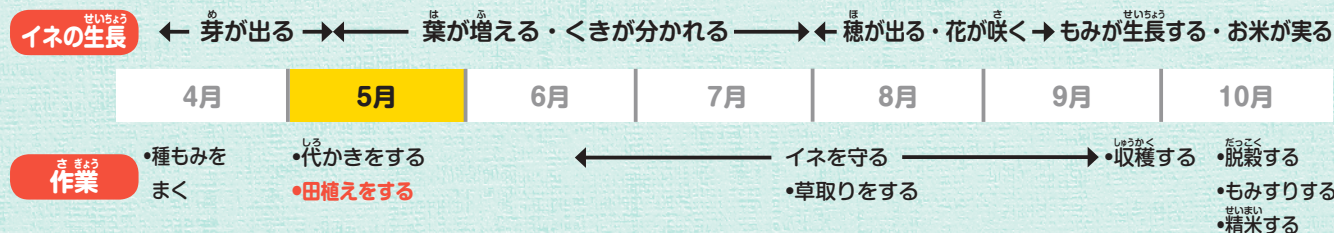


根元から4本のくきが出ている。



4~5月 田植えをする

育苗箱の中で育った苗を、水を張った田んぼに植えます。



日が当たるように苗と苗の間を空ける

育苗箱の苗が、10cm以上の高さにのび、葉が3~5枚ついたら、田植えをします。

苗と苗の間は30cmくらいにして植えます。これは太陽の光がどの苗にも行き届くようにするためです。均等に間を空けて、列がまっすぐになるように植えていくと、あとで雑草を取りのぞく(→P42)ときも効率よく作業できます。



田植えをしよう

田植えをするときの大切なポイントをしょうかいします。

① 2、3本ずつに分ける

発芽した種もみから、10cm以上の高さに育った苗を2、3本ずつの束にする。



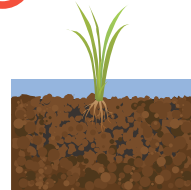
2、3本ずつに分けた苗の束。1束ずつ植えていく。

② 垂直に植える

えんぴつを持つように苗の根のあたりを持ち、地面に対して垂直にまっすぐになるよう植える。

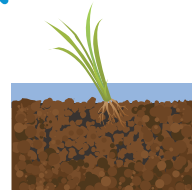


○ 良い植え方



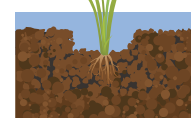
土の中5cmほどの深さに植える。苗の先が上を向いている。

✕ 悪い植え方



苗が土に対して垂直でなく浅いため、ななめにたおれている。

田植えをするときは田んぼの中を後ろ向きに進んでいくといいよ。そのほうが植えた苗をふむ心配がないんだ。



足あとでくぼんだところに植え、水を深くかぶりすぎている。

やってみたよ!

1列にならんで田んぼの中に入った。

まっすぐ植えられるかな?



作業開始から1時間がたって、ようやく田植えが終わった。



めざせお米づくりマスター

田んぼのじょうぎを使おう

大勢でいっせいに田植えをすると、苗と苗の間かくがばらばらになりやすい。

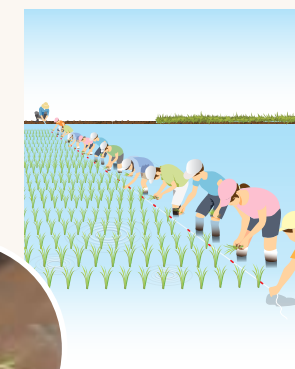
そこで便利なのが「田植えひも」という道具だよ。30cmごとに印をつけた長いひもで、両はしを持ち、田んぼの上にピンと張っておくんだ。田植えをする人はひもの前に1列にならんで、印にあわせて苗を植える。植え終わったら、両はしの人があひもの位置を平行にずらす。田植えをする人はまた印にあわせて苗を植える。これをくり返すと、まっすぐに田植えできるよ。



田植えひも。30cmごとに印がついている。

印のついているところに苗を植えていくと列が曲がらない。

田んぼの両側からピンと張る。1列すべて植え終わったら、次に田植えするところへ平行に移動する。





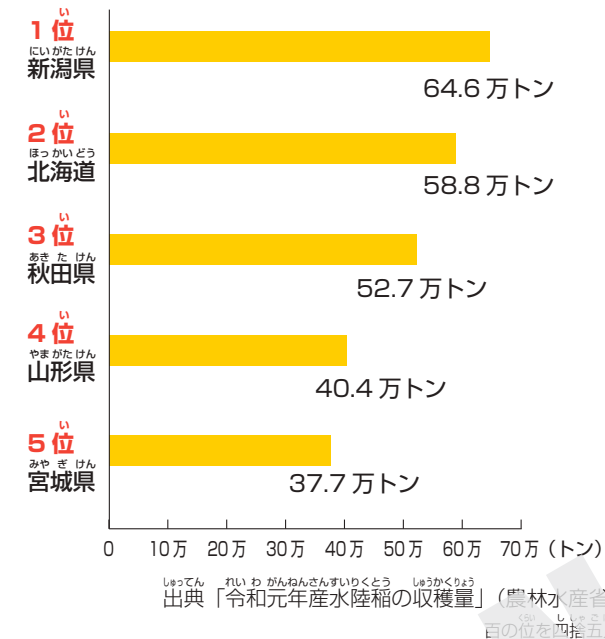
お米の生産地

日本では、気候や地形にあわせて、さまざまな品種のお米がつくられています。

米どころとなっている東北地方

お米はもともと、温暖な土地だけで育てられていました。寒い気候でも育つ品種が開発され、たくさんの地域で生産できるようになりました。とくに新潟県、北海道、東北地方では、おいしいお米をたくさんつくれるようになり、全国に知られる米どころとなっていきました。これらの地域では、大きな河川の下流で、大規模な稲作がおこなわれています。

都道府県別お米の収穫量ベスト5



めざせお米づくりマスター

人気の高いコシヒカリとその子どもたち

お米の味や性質は、品種によってちがうよ。農業の研究所では、さまざまな品種をかけあわせて、よりおいしくじょうぶな品種を開発しているんだ。

もっとも多く生産されているのは「コシヒカリ」で、昭和時代に開発された品種だよ。やわらかくねばり気があるのが特長で、人気も高いため、コシヒカリとほかの品種をかけあわせて新しいお米が次つぎに開発されているよ。「ひとめぼれ」「ヒノヒカリ」も、コシヒカリから生まれた品種なんだ。



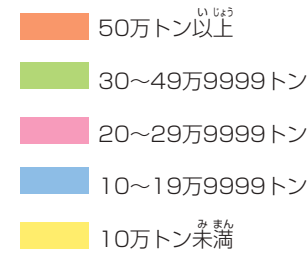
コシヒカリ
北海道・東北北部をのぞく日本全国でとれる。福井県で生まれた品種。あま味があり、強いねばり気がある。



ひとめぼれ
おもに東北地方でとれる。生産量第2位。コシヒカリと同じように寒さに強い。



ヒノヒカリ
おもに九州地方でとれる。生産量第3位。暖かい地域での栽培に適している。



2位 北海道 (58.8万トン)



北海道の水田。平たんで広い土地を生かし、大規模な稲作がおこなわれている。

1位 新潟県 (64.6万トン)

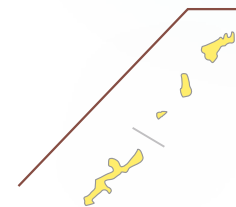


新潟県越後平野の水田。江戸時代に用水路を整備したり、湖を埋め立てたりして、田んぼが開かれた。田んぼの面積は、全国一。

3位 秋田県 (52.7万トン)

4位 山形県 (40.4万トン)

5位 宮城県 (37.7万トン)



山間部でのお米づくり

山あいの地域では、山の斜面に小さな田んぼが、階段のようにならんだ「棚田」で米づくりをしています。棚田は1枚あたりの田んぼの面積がせまく、機械が入りにくいために、人の手で作業をすることが多くなっています。



福岡県八女市皇野村の棚田。山の斜面に切り開いた棚田でお米づくりをしている。



小さな水田が1000枚以上ならぶ、石川県輪島市の千枚田。